

神戸大学の留学生と「阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター見学会」開催

関西支部事務局

2021年7月17日(土)留学生2名と会員3名、事務局2名、神戸大学の先生1名の計8名で、「阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター見学会」を開催しました。

新型コロナ対策のため、留学生の募集定員を5名に減らし、マスクの着用、受付時に検温と消毒に協力していただきました。また、無線ガイドシステムを利用することにより、ソーシャルディスタンスの確保、説明時の飛沫(ひまつ)防止を図りました。



「人と防災未来センター(以下DRIと略す)」に

は、1995年1月17日に発生した阪神・淡路大震災の生々しいビデオを始め、写真を含む多くの証拠品、解説ビデオとシミュレーション、約190,000余りに及ぶ防災・減災関連資料、さらに東日本大震災の津波3D映像等があります。

最初に、西館4階の「1.17シアター」にて、地震破壊のすさまじさを迫力ある大型映像と音響で体感した後、震災直後のまち並みをリアルに再現しているジオラマ模型を見学しました。また復興に至るまでのまちと人を新たな課題とともに紹介するドラマ映画を大震災ホールで鑑賞しました。

その後、DRIの日本語・中国語のそれぞれボランティアガイドの方に、3階・2階の展示フロアで丁寧に案内していただき、被災の状況や復興への道、防災・減災ワークショップ体験や今世界で起こっている自然災害等を学習しました。

最後に、7月に最新鋭の映像技術を使ってリニューアルされたばかりの、東館3階「BOSAIサイエンスフィールド」にて最新の防災知識を楽しみながら学びました。

参加した留学生からは、「自然災害に遭遇したとき、自分や大切な人たちの命を守るため、どのような行動を取れば良いのか、自分で考え、判断し、行動できる力が身についたような気がします。また、早速ホイッスル等の減災グッズを買いに行きました。」との感想があり、大変有意義でした。

